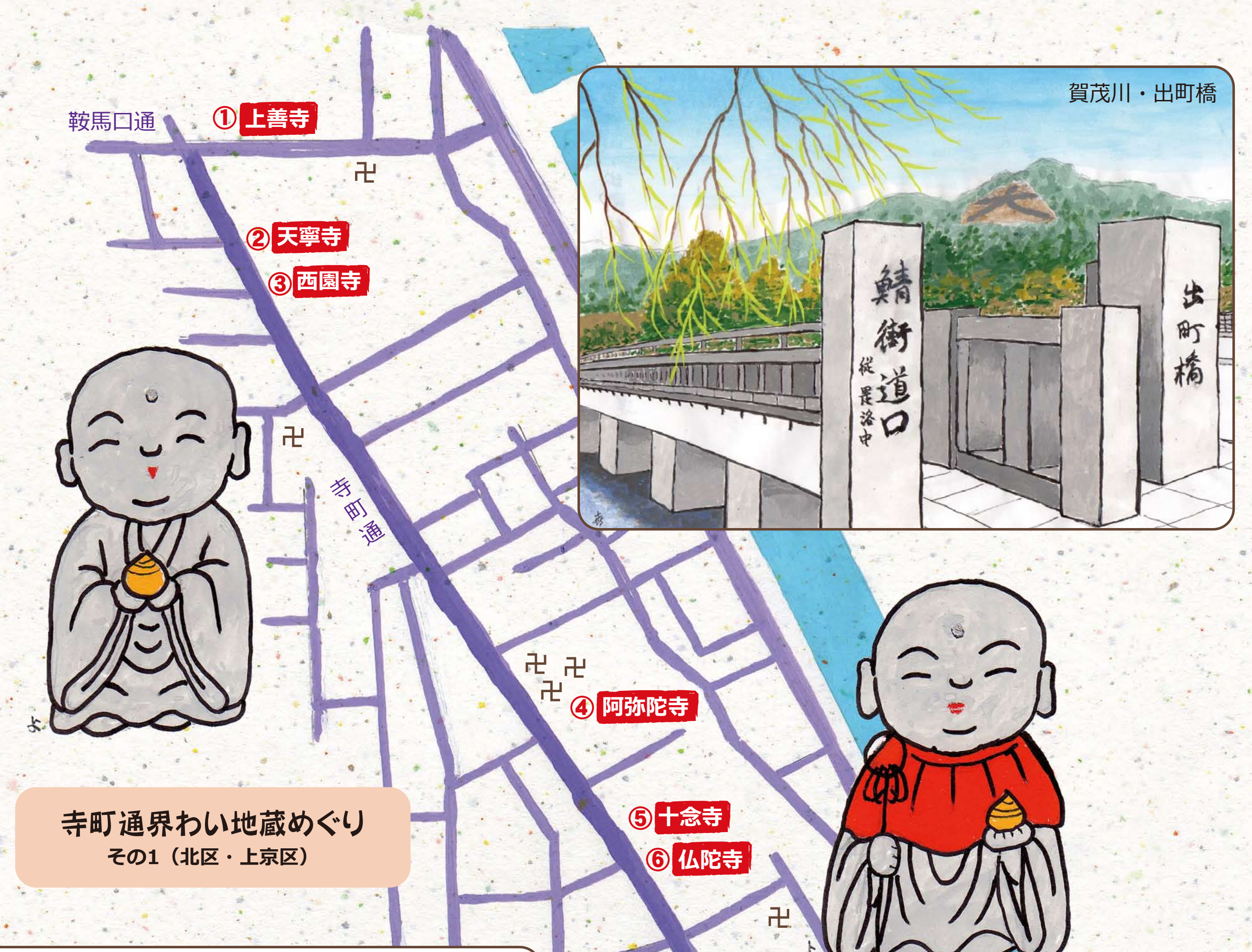
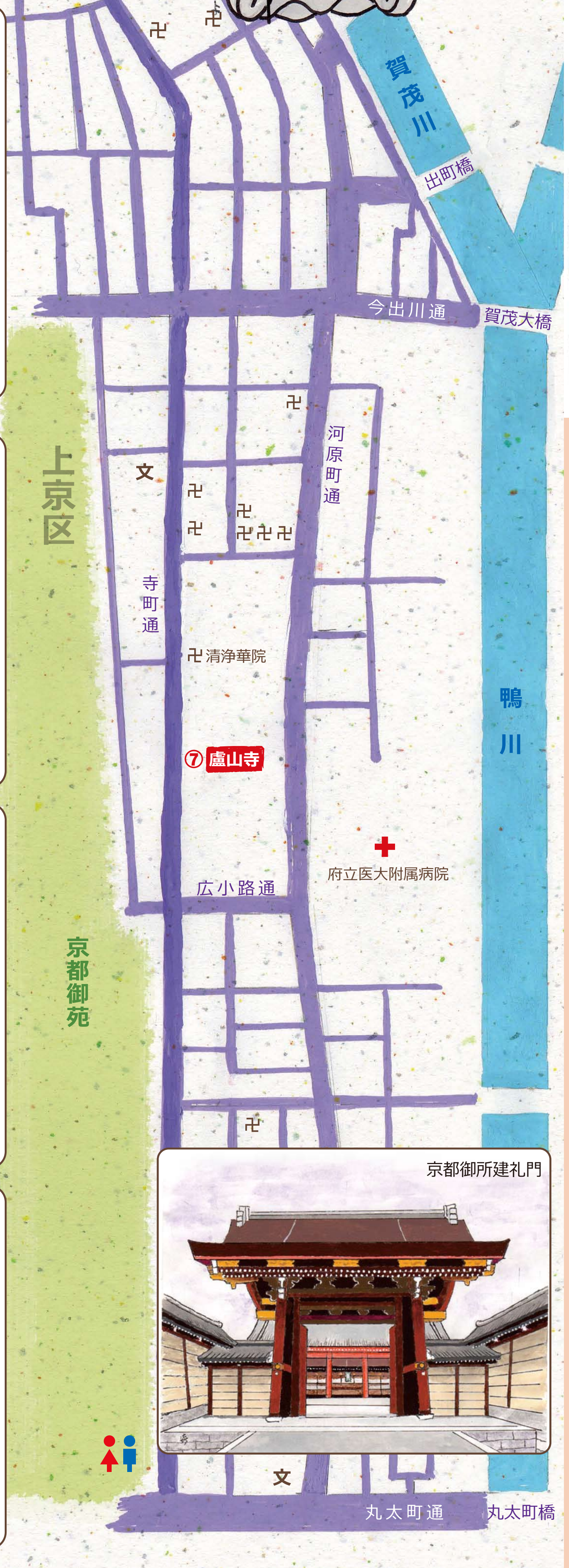
京のお地蔵さんめぐり

寺町通界わいMAP

寺町通界わい地蔵めぐり
その1（北区・上京区）





①深泥池（みどろがいけ）地蔵（上善寺）

小野篁が六道に迷う衆生を救済するために造った六体の地蔵の一つと伝わる。最初は木幡の里に祀られていたが、次に名の由来となる深泥池のそばに移された後、明治になって安住の地を得た。地蔵堂に祀られている地蔵は木像(桜材)は高さ約2mで、穏やかな表情を保つ。洛外の六ケ寺の地蔵を巡拝する「六地蔵めぐり」は、毎年8月22日・23日の両日、境内は参詣者で賑わう。家内安全や無病息災などを祈願して、赤い色の地蔵お幡(六か寺で色が異なる)を授かる。

北区鞍馬口通寺町東入
上善寺門前町338
☎075-231-1619
拝観 9時～16時

②わらべ地蔵（天寧寺）

比叡山の遠望で有名な額縁門がある。寺町通では珍しい曹洞宗の寺院。境内の片隅に祀られているのは青銅製の地蔵。等身大の大きさで、名を「わらべぢぞう」という。右手に錫丈を持ち、左の手のひらの蓮には子どもが乗り、左足もとには石を積む子どもが座る。賽の河原の風景を現代風に表現しているのがなんとも愛らしい。建立は昭和56年と比較的新しいが、手のひらの子どもは、まだ石を積み上げることもできない幼子で、そのあどけなさが胸を打つ。

北区寺町通鞍馬口下ル
天寧寺門前町301
☎075-231-5627
拝観 8時～16時

③槌留（つちとめ）地蔵（西園寺）

藤原北家の流れを汲む西園寺家の菩提寺。地蔵堂内の地蔵は高さ２mの立像で、右手は与願印、左手に宝珠を捧げる。鎌倉様式の古仏で截金模様が美しい。名の由来は、恵心僧都の教えを土止めて転輪聖王として現れたことによるという。堂の照明用スイッチを押すと、天明年間に小泉直晃が描いた地獄極楽図が浮かび上がる。江戸期には洛陽四十八願地蔵めぐりの第二十番札所。霊元法皇御製のご詠歌と伝わる「横川なる流れをここに土止めて法の数々うちも収むる」がある。

上京区寺町通鞍馬口下ル
高徳寺町362
☎075-231-1952
拝観 7時～16時

④お福地蔵（阿弥陀寺）

織田信長・信忠父子の墓があることで知られる。地蔵像は湛慶作と伝わり、本尊阿弥陀如来像とともに本堂に祀られている(非公開)。袈裟を着けていて、彩色も上品で美しく遺されている。お福地蔵とか縁結び地蔵という名の由来は、招福や縁結びに格別のご利益があるからという。今でもお礼参りに詣でる人が少なくない。また境内には、造立時期は不明であるが、浮彫のすばらしい石の地蔵も祀られている。江戸期には浄土四十八願寺の第十六願に数えられた名刹。

上京区寺町通今出川上ル
鶴山町14
☎075-231-3538
拝観 9時～16時
毎年6月2日のみ本堂公開

⑤十念寺地蔵（十念寺）

足利義教創建の寺でその墓がある。阿弥陀如来を祀る本堂は、円形の近代的な建築物で平成5年に再建されたもの。右手奥の地蔵堂は、正徳5年(1715)建立されたもので、地蔵を中尊に開山の真阿上人像らを祀る。地蔵は木造の立像で、高さ約2m。地蔵堂は本堂再建と同時に建立されたもので、ガラスブロックに囲まれた明るいもの。その際、地蔵もお色直しされて、ひときわ鮮やかになった。江戸期には上下寺町三十六地蔵めぐり第5番札所として賑わった。

上京区寺町通今出川上ル
鶴山町13
☎075-231-6478
拝観 9時～16時(チャイムを鳴らして声をかけること)

⑥王城地祭地蔵（仏陀寺）

地蔵堂に祀られている地蔵は、桓武天皇が平安京を定めた際、鎮護国家と衆生救済を祈願して彫らせたので、王城地祭と名付く。像の前にある神鏡は神仏習合のシンボル。賀茂川の洪水を防いだとか、霊夢により子を出家させたところ重病が忽ち平癒したとの霊験話が伝わる。下衣が腹帯に見えることから腹帯地蔵ともいう。江戸期には洛陽四十八願地蔵めぐりの第二十一番札所。霊元法皇御製のご詠歌と伝わる「すべらぎの花の都を護らんとたつる誓のいとも妙なる」がある。

上京区寺町通今出川上ル
鶴山町10
☎075-231-5686
拝観 10時～16時
(地蔵堂内は要許可)

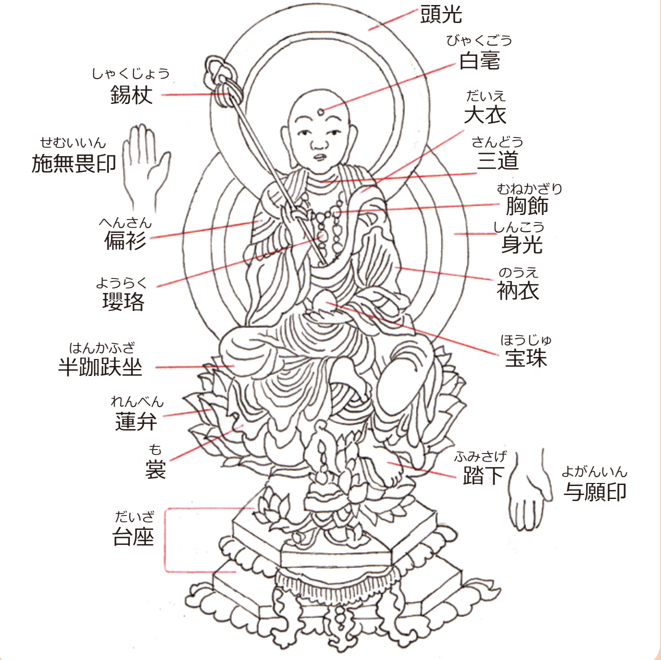
⑦廬山寺（ろさんじ）地蔵（廬山寺）

鬼の法楽と呼ばれる節分会で有名な当寺は、紫式部の邸宅跡を寺に改めたものだ。天台圓浄宗の本山でもある。境内の元三大師堂に秘仏として厨子の奥深く祀られている地蔵は、高さ数センチに満たない小さな坐像であるが、明智光秀の念持仏であったという。戦国時代、人を殺傷することを業とする武将にとって地蔵は心を救う仏だった。正親町天皇の力添えを得て当寺に祀られた地蔵は、小さくてもご利益は大きく、心の中にこうした仏を持ちたいものだ。

上京区寺町通広小路上ル
北之辺町397
☎075-231-0355
拝観 9時～16時
地蔵は非公開

地蔵菩薩像の見方

お地蔵さんの姿（延命地蔵の例）



❖立像・坐像の別

基本的には立像と坐像。坐像には①結跏趺坐、②半跏趺坐、③片足を台座から下した形がある。結跏趺坐は座禅を組むときの座り方で、両腿それぞれに逆側の足の甲をのせてあぐらをかく。半跏趺坐はあぐらをかき、右足の甲を左腿にのせた形。片足を台座から下した形を半跏踏み下げ像又は単に半跏像という場合がある。

❖像容

①剃髪して僧形(声聞形ともいう)をしている。②白毫(眉間にある白い毛のこと。光を放つといい、水晶などを嵌める)をつけていることがある。③耳が長い。④三道(輪廻、すなわち煩悩・業・苦の三道)のあることがある。⑤瓔珞(首飾り)をつけていることがある。⑥衲衣をまとい袈裟をつけていることがある。

❖台座

大別すると蓮華座と須弥座がある。地蔵は菩薩なので、蓮華を象った蓮華座が普通。岩座の上に蓮華座を置くものもある。

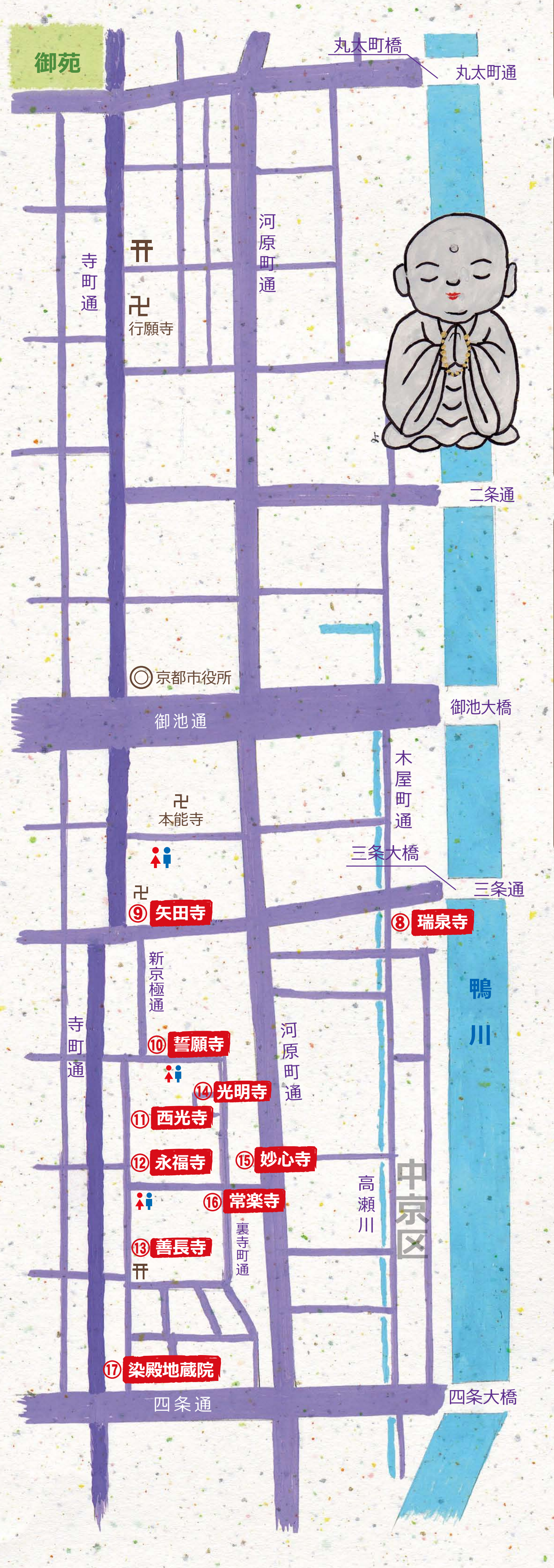
❖光背

像を荘厳するためのもの。地蔵に特有の光背はない。木像では円光背、石造では船形光背が多い。

❖印相と持物

制作年代が比較的古い地蔵像は、左手与願印(指先を下に手のひらを前に向けた形。衆生の願いを叶える)、右手施無畏印(手のひらを前に向けた形。衆生に何ものも畏れることのない徳を施す)のものもみられる。通常は左手に宝珠(衆生の心願を意のままに叶える)、右手に錫杖(杖の上部に錫を付けたもの)を持つ。錫杖を地上につくと、悪獣毒蛇は退散するといい、来訪を知らせる際にも使う。

寺町通界わい地蔵めぐり
その2（中京区）



⑧引導地蔵（瑞泉寺）

角倉了以が豊臣秀次のために創建。秀次が豊臣秀吉によって自害させられた後、秀吉の命により秀次の妻妾幼子ら39人が三条河原で処刑された。その時、四条大雲院の貞安上人がこの地蔵を傍らに置いて引導を授けたのが名の由来。地蔵は山門内右手の地蔵堂に祀られており、木造で像高150㎝。鎌倉時代の作と伝わり、黒ずんで彩色も剥落しているが、眼光は鋭く、きりっとして若々しい。脇壇に並べられた39人の人形が哀れを誘う。本堂には平清盛ゆかりの厄除け地蔵がある。

中京区木屋町通三条下ル
石屋町114-1
☎075-221-5741
拝観 8時～17時

⑨矢田地蔵（矢田寺）

平安時代初期、僧満慶と小野篁が創建したという。地蔵は、満慶が地獄で出会った地蔵菩薩の姿を彫らせたものと伝え、代受苦地蔵あるいは生身(いきみ)地蔵とも呼ぶ。像の周りは火焔があり、火中に立つ地獄代受苦の姿を現している。地獄での地蔵の様子は、寺宝『矢田地蔵縁起絵巻』に詳しい。江戸期には洛陽四十八願地蔵めぐりの第二十八番札所として賑わった。霊元法皇御製のご詠歌と伝わる「いふならく奈落に沈む苦しみをはてしも知らず代り受くてふ」がある。

中京区寺町通三条上ル
天性寺前町523
☎075-241-3608
拝観 8時～19時

⑩六地蔵石幢（せきどう）（誓願寺）

浄土宗西山深草派の総本山。本尊は阿弥陀如来。門前に「迷子みちしるべ」と記した有名な石柱が建つ。同寺墓地の六面体の地蔵石幢は、永享11年(1439)の銘がある古いもの。高さ136㎝、上部各面に舟形光背を彫り込み、蓮華座に立つ像高36㎝の地蔵を浮彫にする。幢身上部に納経のための穴が開き、傘石を載せたと考えられている。六地蔵として年代の確実な古例で、故人の追善供養や死者の引導のために建てられたものという。

京都市中京区新京極通
三条下ル桜之町453
☎075-221-0958
拝観 9時～17時(要許可)

⑪腹帯地蔵（西光寺）

本尊阿弥陀如来の脇壇に祀られている地蔵は、高さ30㎝の木造坐像で、産婦の幸せを願うような慈眼相は、あくまでもやさしい。名の由来は、江戸期に本寺の前にあった清帯寺の土造り腹帯地蔵の胎内仏であったことによる。この地蔵は、安産に霊験ありということで、京中の男女が競って参詣した。江戸期には洛陽四十八願地蔵めぐりの第三十四番札所となった。霊元法皇御製のご詠歌と伝わる「身二つに分くる誓の清ければ結びし岩田帯安く解く」がある。

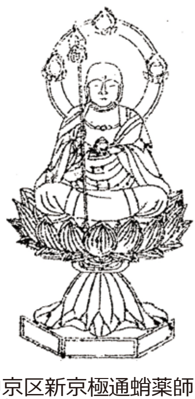
中京区新京極通蛸薬師上ル
中筋町495-1
☎075-211-1938
拝観 10時～17時

⑫鯉地蔵（蛸薬師堂永福寺）

小さな地蔵堂に祀られている地蔵は、鎌倉時代の作と伝わる高さ90㎝の木造立像。足利義政の時代、主人の手紙を届けようとした下男が鴨川を渡る途中、川の中に文箱を落として困っていた時、日頃熱心に信仰していた地蔵が鯉に身を変えて、文箱をくわえて戻ってきたのが名の由来である。江戸期には洛陽四十八願地蔵めぐりの第三十三番札所として賑わった。霊元法皇御製のご詠歌と伝わる「流れなばつひに水屑となるものを含み与えし鯉は名も誰ぞ」がある。

中京区新京極通蛸薬師下ル
東側町503
☎075-255-3305
拝観 8時～16時半

⑬くさがみさん（善長寺）



秘仏。江戸期のお札では、右手に錫杖、左手に宝珠を持ち結跏趺坐をした形。寺が下京区善長寺町にあったとき、境内には疱瘡神の大原大明神が祀られていて、祈願する人が後を絶たなかったという。大原大明神はなくなったが、地蔵が大原大明神のご利益を肩代わりしたものとされる。江戸期には洛陽四十八願地蔵めぐりの第三十五番札所として賑わった。霊元法皇御製のご詠歌と伝わる「六つの輪の杖に導く仮の世や仮の枕を反すにも知れ」がある。

中京区新京極通蛸薬師下ル
東側町518
☎075-221-4992
拝観 8時～18時(地蔵不可)

⑭常盤華（ときわはな）地蔵（光明寺）

地蔵堂に祀られている地蔵は、木造で高さ85㎝、蓮華座に立つ。右手に錫杖、左手に宝珠を持つという通有型の地蔵像であるが、顔相は古色を帯びて、なかなか厳めしい。名の由来は分からないが、延命に格別なご利益がある地蔵として信仰を集めた。江戸期には洛陽四十八願地蔵めぐりの第三十番札所として賑わった。霊元法皇御製のご詠歌と伝わる「枯木だに花咲くてふの誓あれば摘みにし樒むべ常盤なり」がある。

中京区裏寺町通蛸薬師上ル
裏寺町584
☎075-221-1925
拝観:不可

マップ刊行に寄せて

NPO京都観光文化を考える会・都草

都草(会員約270人)は、京都の観光文化の振興と精神性豊かな社会の創造を目指して、平成19年4月に設立した特定非営利活動法人です。現在、重要文化財「京都府庁旧本館」の案内業務をはじめ、ボランティアガイド、社寺の美化活動、観光文化向上のための調査研究などの活動に取り組んでいます。

さて京都には、石像寺の釘抜地蔵や仲源寺の目疾(めやみ)地蔵などのように霊験あらたかなお地蔵さんが祀られていますし、また地域や街角にも特別なご利益を与えてくださるお地蔵さんや伝説・伝承が伝えられているお地蔵さんが多数祀られています。

しかし、こうしたお地蔵さんに関わる特別なご利益や伝説・伝承は、記録に残されることが少ないため、時代の推移とともに、人々の記憶から消え去ろうとしています。

そこで都草では、調査研究活動の一環として平成22年7月、「京のお地蔵さんめぐり」プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、お地蔵さんの由来、ご利益、像の特徴、住民のお地蔵さんに寄せる思いなどについて綿密な調査を行い、その結果をデータベースに蓄積するとともに、ホームページの活用や冊子の発行により、逐次情報公開することにしています。
このたび、このプロジェクトが平成22年度の浄土宗「共生(ともいき)・地域文化大賞」企画助成金の交付を受けましたので、これを機会に、お地蔵さんが多数祀られている寺町通界わいについて本マップを刊行いたしました。調査にご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。(注)マップの内容は2011.4.23現在。

アクセス(主要地点)

北区・上京区

①上善寺:地下鉄烏丸線「鞍馬口」から鞍馬口通を東へ徒歩8分。
・市バス「三条京阪」から37号系統「出雲路橋」西へ徒歩3分。
⑦廬山寺:京阪「出町柳」から今出川通を経て寺町通を南へ徒歩15分。
・市バス「京都駅前」から4号,17号,205号系統「府立医大病院前」広小路通を経て寺町通を北へ徒歩3分。

中京区

⑧瑞泉寺:「三条京阪」から三条通を西へ徒歩4分。
・市バス「京都駅前」から4号,17号,205号系統「河原町三条」三条通を東へ徒歩4分。
⑰染殿院:阪急「四条河原町」から四条通を西へ徒歩3分。
・市バス「京都駅前」から4号,17号,205号系統「四条河原町」四条通を西へ徒歩3分。

下京区

⑱透玄寺: 阪急「四条河原町」から四条通を経て寺町通を南へ徒歩5分。
・市バス「京都駅前」から4号,17号,205号系統「四条河原町」四条通を経て寺町通を南へ徒歩6分。
㉕蓮光寺:地下鉄烏丸線「五条」から五条通を東行。富小路交差点を南へ徒歩8分。
・市バス「京都駅前」から4号,17号,205号系統「河原町五条」五条通を西行。冨小路交差点を南へ徒歩6分。

発行:NPO京都観光文化を考える会・都草(理事長坂本孝志)
(事務所)京都市上京区下立売通新町西入　京都府庁旧本館二階
(電話・FAX)075-451-8146　http://www.miyakogusa.com

2011.4.23.5000